

# 防衛費の増額 看過でやむ三行不一致

防衛力の強化をめぐり、岸田

に見えてくる。

首相は「内容と予算、財源を」  
体で議論する」と再三繰り返し  
てきた。しかし実際には「規模  
ありき」の予算に身の丈を超  
た内容を詰め込み、肝心の財源  
は実体を欠くまでの見切り發  
車になった。重大な言行不一致  
であり、看過できない。

首相はおどといの安保関連3  
文書決定後の会見で、防衛費の  
安定財源確保について「今を生  
きる我々が未来の世代と責任を  
果たす」と述べた。だが、示さ  
れた「財源」はどれもあやふや  
で、「未来に責任を果たした」  
とは到底言えない代物だ。

柱の一つとされる決算剩余金  
の活用は、例年の補正予算財源  
を転用することを意味し、今後  
補正を組めばとの分、赤字国債  
が増える。歳出改革による捻出  
も、5年間で1兆円強を積み上  
げるとしながら具体策はなく、  
「絵に描いた餅」になるのが目

に見える。増税も、法人税や所得税など  
を上げる枠組みは固めたが、自  
己内閣の猛反発で実施時期は決  
めなかった。先送りに等しい。  
防衛費の大幅な増額を両院に求  
めながら、増税の話には及び腰  
になる自民党議員は無責任の極  
みだが、これを財源確保と称す  
る首相も大同小異である。

さらに首相は、戦後初めて防  
衛費に建設国債を充てる方針を  
決めた。隊舎や倉庫などの施設  
整備を念頭に置いているようだ  
が、歴代政権の不文律を破り、  
野放図な軍拡への歯止めをはず  
すことになる。

血の発言を次々に覆し、歴  
史から学んだ大事な教訓もない  
がしらにする首相の姿勢には、  
確固たる信念がうかがえない。  
そのまま進めば財源確保が行き  
詰まり、結局次々と国債で防衛  
費をまかなうことになるのでは  
ないか。

そもそももともな財源を示せ  
ないのは、防衛費拡大が國力を

超えてくるからだ。今後5年で  
計43兆円との額を先行させ、專  
守防衛を空洞化させる敵基地攻  
撃能力に巨費を投じる。その判  
断の誤りは、大きな禍根を残す  
だらう。

戦後の安全保障政策の一大転  
換でありながら、決め方もあま  
りに拙速だ。とりわけ、増税を  
含む財源確保策が国威と見える  
形で議論されたのは、わずか1  
週間しかない。

恒久的な増税ならば、税制全  
般について将来に向けたあるべ  
き姿をあわせて示すことが必須  
である。富裕層に有利な金融所  
得課税などのゆがみにはほとん  
ど手をつけず、復興特別所得  
税の仕組みの転用を打ち出すの  
は、安易に過ぎる。

防衛力強化の中身、予算、財  
源について、一体での議論のや  
り直しが必要だ。